

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700020		
法人名	医療法人 豊医会		
事業所名	医療法人 豊医会 グループホーム くう		
所在地	岡山県美作市豊国原1056番地7		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvsyoCd=3393700020-00&ServiceCd=3204&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・管理者が医師であり、同一法人の医院と連携し、常に利用者の健康管理を行い状態変化に応じた支援を行っている。また、身体能力の低下予防の為にリハビリにも力を入れており、医療・介護両面での万全な支援体制がある。
 ・利用者一人ひとりのペースに合わせて生活できるように支援し、些細なことでも本人に選択してもらう場面を作るようにしていき、自己決定できるように働きかけている。利用者のできることに着目し、個々の役割を持ち、日々楽しみや活気ある生活ができるように支援している。
 ・利用者が希望する場所や地域の行事への参加等、積極的に外出の機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体で、同一の敷地内に医療機関がある。それは利用者や家族にとって安心に繋がっている。地域の様々な行事に参加したり、ボランティアを受け入れたりすることで、地域の人達に認知症の理解を深めている。防災マップの中に避難所として掲載されていることは、地域に必要な事業所として根付いているといえるのではないだろうか。また、利用者が自己決定できるように活動の種類を増やしたり、思いに寄り添う姿勢を大切にしたりと、利用者がその人らしく楽しく生活できるように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を年度毎に作り、今年度も「和」と定め、リビングに掲示し、理念を常に意識できるようにしている。	毎年、職員から出た意見を基に理念を決め、リビングに掲げている。今年度は「和」とし、職員間の和を大切にすることで、利用者の生活が和のあるようにと取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お涼み会や甘酒祭りなど、地域の行事に積極的に参加している。日常的にも中庭への散歩など外出しており、そこで出会う旧知の友人や知人等と交流を深めている。	地域行事への参加だけでなく、職場体験や学生の実習を受け入れている。また昨年度からは地域ボランティアの来訪があり交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお涼み会等の際、地域の住民が入居者を目の当たりにし、ふれあうことによって認知症の理解につながっていければと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席者より評価、要望、助言を頂きながら、地域の行事等情報交換の場になっている。そこでの地域代表者や家族の意見をもとに外出の時期、場所などの調整を行い参考にさせていただいている。	行事活動の様子をスライドにまとめ、参加者に見てもらうことで、活動の評価や助言を得ている。参加者から田植えを見学してはと提案があり、ドライブがてら地域の様子を見てまわった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の機会を活用し情報を共有している。また、その場で相談などする機会も作っていただいている。	コロナ禍での運営推進会議の開催方法を相談したり、感染症対策について確認をしたりと、日ごろから担当者に相談し助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。豊富な敷地(中庭など)を活用して気分転換に繋がるよう、安全面に配慮し声掛けを行っている。	法人内と事業所内で、それぞれ年1回の研修会を実施している。言葉の拘束について研修を行った際、声掛けやそっと寄り添うことでその人の思いを知り、安易に言葉の拘束を行わないよう職員間での共有を行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修等により高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援制度について、社会福祉協議会主催の勉強会参加などにより学ぶ機会の確保に努めている。個々の必要性については適宜対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	緊急時の対応や入居中起こりうる危険について等、複数職員立会いの下、詳しく充分に説明し、理解・納得の上で同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で外部の方へ意見や思いを伝えられる機会や、家族連絡表や面会時等に問いかけを行っている。意見箱も設置しており、何でも意見を伝えてもらえる機会を作っている。	墓参りの外出やトイレのウォシュレットの設置についての要望があり、それぞれ対応している。電話での情報共有も行き、要望や意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議を月に一度開催し、職員の意見、要望を聞くようにしており、法人内会議にてその意見を具体的に提案し、設備・待遇の改善などに繋げている。	毎日の申し送りの際や月に2~3回会議を実施し、意見交換を行っている。職員から安全対策のため、介護ベッドへの変更の提案があり購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週1回のマネジャー会議にて現場で起きている状況や変化を知る機会を作り、職場環境・条件の整備に努めており現場からの意見も提案し易い状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階別に応じて受講できるように勤めている。それらの研修を現場に還元し、生かせるよう職員個々も努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員研修の一環として他グループホームへの訪問・見学の機会を設けている。また、介護支援専門員協会をはじめ、近隣施設関係者と情報交換の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面談を行い、本人が置かれている状況を把握し、本人の思いや不安などを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意見、状況を把握し、改善に向けた支援の提案を行い、相談を受けた時点でグループホーム以外での対応の必要性が高いと思われる場合についてはケアマネジャーや包括支援センターに繋げるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを共感し、理解するように努めており、共に支えあえる関係作りに留意している。洗濯物たたみ等簡単な家事補助等にも参加されている入居者もおり、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族連絡表にて本人の日頃の状況を報告し、本人を支える為の協力関係を築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた通所サービスの知人や友人に会いに行ったり、電話や手紙での連絡を取り持つ等、継続的な交流ができるよう支援している。	家族・親戚の面会や、併設の事業所での知人との交流、家族との電話などを支援し、馴染みの人との関係継続を行っている。ドライブがてら自宅を見に行ったり、家族と自宅に帰ったりする人もいる。	今後、手紙の返事や絵手紙の作製をしたいと聞いた。実現することで、さらに馴染みの人との関係継続の支援になることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員同士で共有に努めている、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内のサービス利用者の場合は遊びに来てもらったり、遊びに行ったり等継続的な付き合いがあり、対応する職員とも交流があるため必要に応じ相談を受ける機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推測したり、それとなく確認している。週に1度ケアミーティングを行い意向の把握に努めている。	本当にしたい事の把握は難しいが、行事や活動への参加で、表情の変化や発言から関心のあることを見つけ、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を本人やご家族から継続的に把握できるように努めている。入居以前に利用していた介護保険等サービスから把握することも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録などにより、一人ひとりの生活リズムを把握し、できないことよりできることに注目し、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日々の関わりの中で意向を聞き、反映させるようにしている。職員間での意見交換や担当者会議などから現状に即した介護計画を作成している。	家族や入所前のケアマネジャーから、生活歴や意向などを聞き、介護計画に反映させている。パソコンや電子端末の導入により、日々の記録やチェック表の入力が効率よく行え、モニタリングの際に活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。職員の気づきや状態変化は介護記録に記載し職員が毎日確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況や要望に応じて、予定以外の外出・外泊、通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応できるよう、調整・努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での生活が継続できるよう、自治会長や民生委員と意見交換する機会を運営推進会議時に随時設けている。地域のお涼み会や祭りなどにも毎年参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者である医師が、かかりつけ医となっている利用者が多いが、希望に応じて利用前からのかかりつけ医や他科での医療を受けられる方もいる。その場合は家族同行の受診としているが、支援経過の報告など連携に留意している。	急な体調不良時は、併設の医療機関から電話での指示や助言を得ることもある。他科への受診は、家族にお願いしている。その際には診療情報提供書を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師との定期的な面接や介護記録をもとに、確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームでの対応可能な状況になった場合、円滑に退院できるよう、グループホーム管理者兼併設病院医師と密接に相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針について」と事業所内での「看取りに関する指針」について説明し、考えや要望を書面にて確認している。	入所時に重度化した際の説明を行い、同意を得ている。これまで看取りは行っていないが、医療機関が併設していることもあり、今後検討していこうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が急変や事故発生時に対応できるように周知徹底を図っている。毎年、法人内にて研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、ホーム内での防災訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	避難訓練の際は消防署の職員が来所し、通報の仕方や器具の使用方法などの説明をしてくれる。スプリンクラーの設置や火災警報器が鳴ると法人幹部に連絡が行くシステムが作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように目立たずさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	利用者に声をかける時は、親しみを込めて「さん」付けすることを基本としている。各居室にトイレがあることや着替えをそれぞれの部屋で準備するなど、プライバシーの配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて声かけをして、些細なことでも本人が決める場面を作っている。難聴の方には、ホワイトボードなど活用し筆談にて曖昧な伝わり方にならないように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日、その時の本人の意志を尊重したペースを大切にしている。また、行きたい所へ外出したり、出来る限りしたいことをしてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援をしており、日頃から化粧やマニキュアをして楽しんでもらえるよう取り組んでいる。法人に散髪業者が入っており3週間に1度程度希望者に散髪、毛染め、顔剃りなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を考慮し、摂取できないメニューの場合には代替を準備したり、食事形態の変更などの工夫をしている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事したり、行事の際はオーダブル形式など楽しく食事ができるよう取り組んでいる。	外部委託に変更したことで、これまで提供できなかったメニューや細かな食事形態となり、利用者から喜ばれている。嗜好に合わせ、メニューの変更もできることから、食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と連携し、個々に応じた量や形態の提供に取り組んでいる。食事・水分摂取量を確認し、栄養状態の把握に努めている。水分摂取量の少ない方にはイオン飲料などで対応することで必要量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は居室の洗面台にて歯磨きを行っていた。利用者によってはうがいや口腔清拭を行い、口臭予防、肺炎防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。リハビリパンツやパッド類も個々の状況に合わせて使い分け、使用している。	排泄チェック表を活用し、排泄のタイミングを把握することでトイレでの排泄を促している。状態に合わせ、リハビリパンツやパッドを使用し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、献立に繊維質の食物を充分に取り入れ、1日の水分摂取量を把握し、不足している場合はお茶以外の飲物を提供する等十分な水分補給ができるようにしている。また、体操や散歩などの運動を行う時間を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認して入浴していただいている。ほぼ全員入浴が大好きであるが、体調や入浴拒否の場合には日を変えたり足浴や清拭など行い、個々に沿った支援をしている。	週に2~3回入浴できるようにしているが、皮膚の状態により毎日入浴している人もいる。入浴できない時には、足浴や清拭で対応している。また、近くの足湯へ出かけることもあり入浴を楽しむ支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めているが疲れやすい方等、必要に応じて午後の休眠時間を1時間程度確保し、夜間の睡眠の弊害となっていないか確認している。室温、湿度にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書を個人ファイルに保管し、全職員が把握しやすいようにしている。薬の変更や状態変化がみられた場合には介護記録に詳細に記録すると共に主治医や看護師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるような仕事を頼み、感謝の言葉かけをしている。また、花見や地域の行事参加等を利用者と相談しながら計画し、楽しみに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	運営推進会議などでの情報を参考にしながら一人ひとりの希望に沿って地域行事への参加等、積極的に外出の機会を設けている。	敷地内の中庭での外気浴や散歩を日常的に行っている。今年度は地域行事への参加は難しいが、季節に合わせてドライブを兼ねあじさいやこいのぼりを見に行ったり、田植えの様子を見に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針により現金などの貴重品の所持は遠慮していただいているが、本人が不安を訴えたり、本人・家族の希望により、少額のお金は自己管理できる範囲内で所持してもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に考えながら、毎月大きなカレンダーを作成している。クリスマスツリー、雛人形、七夕飾りなど季節感を彩っている。	壁画づくりが得意な職員が中心となり、利用者と一緒に毎月のカレンダーや飾りを作っている。温度計や加湿器を設置したり、時間を決めて換気をしたり等、感染症対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と談話室が一体的な作りであるが、一人ひとりが思い通りの場所で過ごしてもらうようにしており、食堂の席は気の合った利用者同士が近くに坐るよう考慮している。ソファのスペースは利用者の憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具、タンス、衣類などが持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。自宅より仏壇を持参している方もいる。	入居時には馴染みの家具を持ち込めるよう運搬の支援を行っている。タンスや仏壇、家族の写真、趣味の物などを持ち込み、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況や希望に合わせて、手すりの増設や畳部屋にベッドを導入するなどの対応をしている。また、シャワートイレ設置のある部屋もある。リビングはクッションフロアになっており安全面に配慮した温かみのある作りになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700020		
法人名	医療法人 豊医会		
事業所名	医療法人 豊医会 グループホーム くう		
所在地	岡山県美作市豊国原1056番地7		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3393700020-00&ServiceCd=3204&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・管理者が医師であり、同一法人の医院と連携し、常に利用者の健康管理を行い状態変化に応じた支援を行っている。また、身体能力の低下予防の為にリハビリにも力を入れており、医療・介護両面での万全な支援体制がある。

・利用者一人ひとりのペースに合わせて生活できるように支援し、些細なことでも本人に選択してもらった場面を作るようにしていき、自己決定できるように働きかけている。利用者のできることに着眼し、個々の役割を持ち、日々楽しみや活気ある生活ができるように支援している。

・利用者が希望する場所や地域の行事への参加等、積極的に外出の機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を年度毎に作り、今年度も「和」と定め、リビングに掲示し、理念を常に意識できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お涼み会や甘酒祭りなど、地域の行事に積極的に参加している。日常的にも中庭への散歩など外出しており、そこで出会う旧知の友人や知人等と交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお涼み会等の際、地域の住民が入居者を目の当たりにし、ふれあうことによって認知症の理解につながっていければと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席者より評価、要望、助言を頂きながら、地域の行事等情報交換の場になっている。そこでの地域代表者や家族の意見をもとに外出の時期、場所などの調整を行い参考にさせていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の機会を活用し情報を共有している。また、その場で相談などする機会も作っていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。豊富な敷地(中庭など)を活用して気分転換に繋がるよう、安全面に配慮し声掛けを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修等により高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援制度について、社会福祉協議会主催の勉強会参加などにより学ぶ機会の確保に努めている。個々の必要性については適宜対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	緊急時の対応や入居中起こりうる危険について等、複数職員立会いの下、詳しく充分に説明し、理解・納得の上で同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で外部の方へ意見や思いを伝えられる機会や、家族連絡表や面会時等に問いかけを行っている。意見箱も設置しており、何でも意見を伝えてもらえる機会を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議を月に一度開催し、職員の意見、要望を聞くようにしており、法人内会議にてその意見を具体的に提案し、設備・待遇の改善などに繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週1回のマネジャー会議にて現場で起きている状況や変化を知る機会を作り、職場環境・条件の整備に努めており現場からの意見も提案し易い状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階別に応じて受講できるように勤めている。それらの研修を現場に還元し、生かせるよう職員個々も努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員研修の一環として他グループホームへの訪問・見学の機会を設けている。また、介護支援専門員協会をはじめ、近隣施設関係者と情報交換の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面談を行い、本人が置かれている状況を把握し、本人の思いや不安などを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意見、状況を把握し、改善に向けた支援の提案を行い、相談を受けた時点でグループホーム以外での対応の必要性が高いと思われる場合についてはケアマネジャーや包括支援センターに繋げるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを共感し、理解するように努めており、共に支えあえる関係作りに留意している。洗濯物たたみ等簡単な家事補助等にも参加されている入居者もおおり、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族連絡表にて本人の日頃の状況を報告し、本人を支える為の協力関係を築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた通所サービスの知人や友人に会いに行ったり、電話や手紙での連絡を取り持つ等、継続的な交流ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員同士で共有に努めている、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内のサービス利用者の場合は遊びに来てもらったり、遊びに行ったり等継続的な付き合いがあり、対応する職員とも交流があるため必要に応じ相談を受ける機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推測したり、それとなく確認している。週に1度ケアミーティングを行い意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を本人やご家族から継続的に把握できるように努めている。入居以前に利用していた介護保険等サービスから把握することも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録などにより、一人ひとりの生活リズムを把握し、できないことよりできることに注目し、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日々の関わりの中で意向を聞き、反映させるようにしている。職員間での意見交換や担当者会議などから現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。職員の気づきや状態変化は介護記録に記載し職員が毎日確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況や要望に応じて、予定以外の外出・外泊、通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応できるよう、調整・努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での生活が継続できるよう、自治会長や民生委員と意見交換する機会を運営推進会議時に随時設けている。地域のお涼み会や祭りなどにも毎年参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者である医師が、かかりつけ医となっている利用者が多いが、希望に応じて利用前からのかかりつけ医や他科での医療を受けられる方もいる。その場合は家族同行の受診としているが、支援経過の報告など連携に留意している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師との定期的な面接や介護記録をもとに、確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームでの対応可能な状況になった場合、円滑に退院できるよう、グループホーム管理者兼併設病院医師と密接に相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針について」と事業所内での「看取りに関する指針」について説明し、考えや要望を書面にて確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が急変や事故発生時に対応できるように周知徹底を図っている。毎年、法人内にて研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、ホーム内での防災訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように目立たずさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて声かけをして、些細なことでも本人が決める場面を作っている。難聴の方には、ホワイトボードなど活用し筆談にて曖昧な伝わり方にならないように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日、その時の本人の意志を尊重したペースを大切にしている。また、行きたい所へ外出したり、出来る限りしたいことをしてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援をしており、日頃から化粧やマニキュアをして楽しんでもらえるよう取り組んでいる。法人に散髪業者が入っており3週間に1度程度希望者に散髪、毛染め、顔剃りなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を考慮し、摂取できないメニューの場合には代替を準備したり、食事形態の変更などの工夫をしている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事したり、行事の際はオードブル形式など楽しく食事ができるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と連携し、個々に応じた量や形態の提供に取り組んでいる。食事・水分摂取量を確認し、栄養状態の把握に努めている。水分摂取量の少ない方にはイオン飲料などで対応することで必要量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は居室の洗面台にて歯磨きを行っていた。利用者によってはうがいや口腔清拭を行い、口臭予防、肺炎防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。リハビリパンツやパッド類も個々の状況に合わせて使い分け、使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、献立に繊維質の食物を充分に取り入れ、1日の水分摂取量を把握し、不足している場合はお茶以外の飲食物を提供する等十分な水分補給ができるようにしている。また、体操や散歩などの運動を行う時間を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認して入浴していただいている。ほぼ全員入浴が大好きであるが、体調や入浴拒否の場合には日を変えたり足浴や清拭など行い、個々に沿った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めているが疲れやすい方等、必要に応じて午後の休眠時間を1時間程度確保し、夜間の睡眠の弊害となっていないか確認している。室温、湿度にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書を個人ファイルに保管し、全職員が把握しやすいようにしている。薬の変更や状態変化がみられた場合には介護記録に詳細に記録すると共に主治医や看護師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるような仕事を頼み、感謝の言葉かけをしている。また、花見や地域の行事参加等を利用者と相談しながら計画し、楽しみに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	運営推進会議などでの情報を参考にしながら一人ひとりの希望に沿って地域行事への参加等、積極的に外出の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針により現金などの貴重品の所持は遠慮していただいているが、本人が不安を訴えたり、本人・家族の希望により、少額のお金は自己管理できる範囲内で所持してもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に考えながら、毎月大きなカレンダーを作成している。クリスマスツリー、雛人形、七夕飾りなど季節感を彩っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と談話室が一体的な作りであるが、一人ひとりが思い通りの場所で過ごしてもらうようにしており、食堂の席は気の合った利用者同士が近くに坐るよう考慮している。ソファのスペースは利用者の憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具、タンス、衣類などが持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。自宅より仏壇を持参している方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況や希望に合わせて、手すりの増設や畳部屋にベッドを導入するなどの対応をしている。また、シャワートイレ設置のある部屋もある。リビングはクッションフロアになっており安全面に配慮した温かみのある作りになっている。		